

簡易な棧積み基礎（架台）の作り方

千葉宗昭

材料を棧積みして天然乾燥を行う場合、棧積み
の基礎は地盤の沈下による狂いが生じないように
地固めを行い、雨のはねかえりによる木材の損傷
と含水率むらを防ぐために地上40cm程度の高さを
保つ必要があります。しかし、この基礎作りには必
要な大断面材などの資材不足から、実際には正角
（約10cm角）を1本ならべるか2本重ねた程度に
棧積みしている場合が多く見受けられます。

そこで、この基礎作りに必要な資材不足を解消
するための平割を用いた簡易な基礎（架台）作り
について紹介します。

架台の作り方

- 1) 製材時に厚さ4.5cm、幅10.5cmの平割を木
取り、長さ45cmに切断します。この場合、原
木の端材の部分（チップ材または薪材になる
部分、少々丸身も可）から長さ45cmの平割
を木取り利用するのも有効な方法です。
- 2) 長さ45cmに切断した平割を図1のように重
ね、釘打ちし、高さ約40cmのブロック状にし
ます。釘は平割と平割を固定させるために長

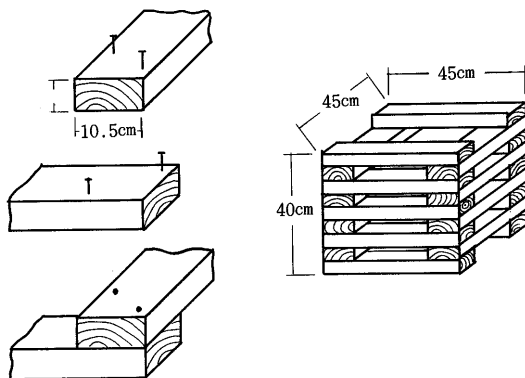


図1 架台ブロックの作り方

1991年11月号

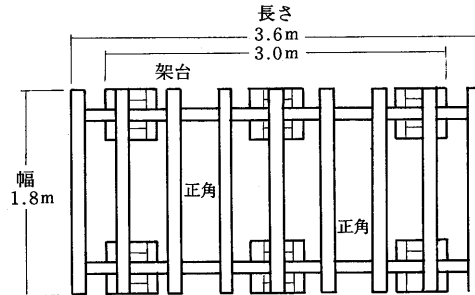


図2 架台と正角の配置

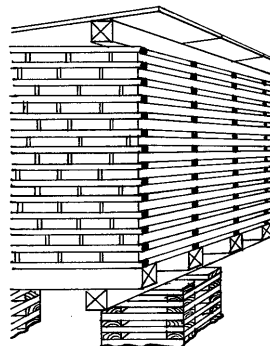


図3 架台を使った棧積み状態

さ90mm以上の釘
を用います。また
架台の変形を防ぐ
ために釘を交互に
打ち込みます。

架台の設置

- 1) 地盤は沈下による架台の狂い

が生じないように地固めを行います。

- 2) 棧積み全体の幅方向 1.8m、長さ方向 3m
（いずれも架台の両端で）の両端と中心部に
架台を設置します（図2）。

- 3) 設置した架台の上のほぼ中心部に長さ約
3.6mの正角を置き、さらに長さ1.8mの正
角を直角にならべて棧積みを行います（図2、
3）。

この架台は移設も簡単で、多少の狂いもパッキン（またはクサビ）で容易に調整できるとともに、架台の幅があるので安定性も確保できます。

（林産試験場 材料性能科）